

# 取扱説明書

## シグナルトランスデューサ

MODEL : 7672S

この取扱説明書は、本製品をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取り計らいください。

本製品を安全にご使用いただくため次の事項をお守りください。また、ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

### ・ 注意

- 感電の恐れがありますので、次の事項をお守りください。
- ・ 電源端子へ接続時は、活線状態で行わないでください。
  - ・ 端子への接続は緩みのないようにしっかりと締め付けてください。
  - ・ 通電中は電源端子に触れないでください。
- 次のような場所では使用しないでください。故障、誤動作等の原因となります。
- ・ 雨、水滴、日光が直接当たる場所。
  - ・ 高温、多湿やほこり、腐食性ガスの多い場所。
  - ・ 外来ノイズ、電波、静電気の発生が多い場所。

### 点 検

・ 7672Sがお手元に届きましたら、仕様の違いがないか、また輸送上での破損がないか点検してください。本器は厳しい品質管理プログラムによるテストを行って出荷しています。品質や仕様面での不備な点がありましたら、形名・製品番号をお買い求め先又は当社営業所までご連絡ください。

### 使用上の注意

精密機器のため、運搬、取付け、その他取り扱いには十分ご注意ください。

本器には電源スイッチが付いていませんので、電源に接続すると直ちに動作状態になります。

電源回路にノイズ・サージ等が混入し誤動作、故障が発生する恐れのある場合には適当なノイズ対策が必要です。

本器の仕様・規格に適する範囲でご使用ください。

### 概 要

本器は各種のパルス列入力信号を、その周波数に比例したご希望の直流電圧や直流電流に変換するコンパクトな絶縁信号変換器です。

取付は、DINレールにワンタッチで着脱できるプラグイン方式を採用していますので、取付工数が大幅に削減できます。

### 取扱方法

#### 1) 取 付

添付している端子台をDINレールに取付けるか又はM4ネジで固定してください。

なお、2ヶ以上連続して取り付ける場合は、図1のような間隔をあけて取り付けてください。

#### 2) 設置場所

設置場所は周囲温度が -5 ~ 55 の範囲で、湿度90%RH以下の結露しない所をお選びください。

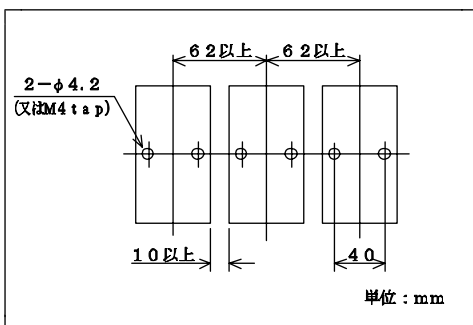


図 1

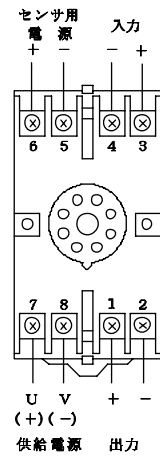


図 2

#### 3) 配線

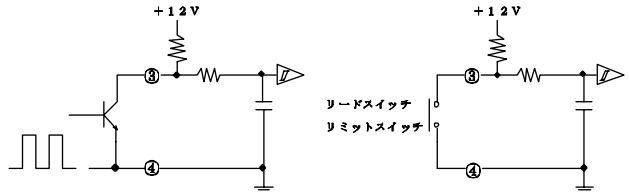
1. 本器の端子台の端子ネジはM3.5です。圧着端子等で正確、確実に配線してください。
2. 配線は図2の接続図により接続し、電線は回路の定格容量に適合するものを使用してください。
3. センサに電源が必要な場合は端子より供給してください。供給電源の定格はDC12V ± 10% 30mA MAXとなっています。

### 入力仕様

矩形波入力の場合DUTY比は20 ~ 80%の範囲内としてください。各種の入力信号波形に対応できるよう3種の入力形式を準備しています。センサ等の種類により適切なタイプをご選定ください。

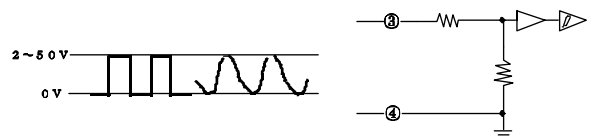
#### ON OFFパルス・・・形名：7672S 1

センサ側の出力が、無電圧接点、オープンコレクタ等のON OFFパルスに適した入力回路です。検出電圧はDC12VでON時の閉路電流は約3mAです。検出レベルは Hi : 5V以上、Lo : 1V以下となっています。



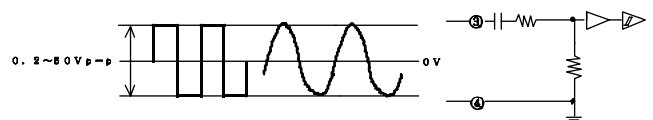
#### 電圧パルス1 (直流結合)・・・形名：7672S 2

センサ側の出力が、ロータリーエンコーダ、近接スイッチ、光電スイッチ等の直流の電圧パルス波形に適した入力回路です。入力信号電圧範囲は 2Vp ~ 50Vp です。検出レベルは、Hi : 1.5V以上、Lo : 0.5V以下となっています。入力インピーダンスは約200k です。



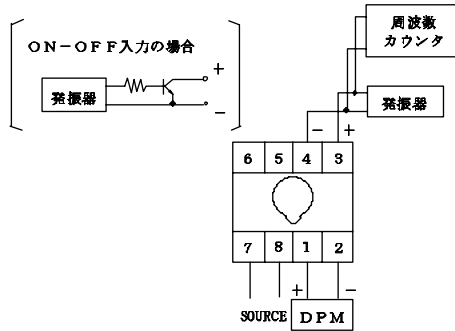
#### 電圧パルス2 (交流結合)・・・形名：7572S 3

センサ側の出力が、マグネチックセンサ、回転計用発電機等の交流の電圧パルス波形に適した入力回路です。入力信号電圧範囲は、0.2Vp p ~ 50Vp pです。検出レベルはHi : 0.1V以上となっています。

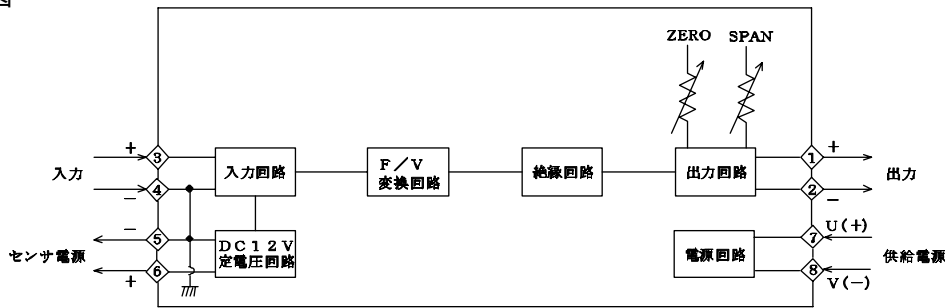


調整

- 出荷時は許容差内に調整してありますが、長期に確度を保持するため約1年毎の校正をお勧めします。
- 校正する時は、発振器と周波数カウンタと電圧計（電圧出力の場合）、又は電流計（電流出力の場合）を図3のように接続してください。  
 発振器の出力がゼロ又はカットオフ周波数（注）以下の時に出力がゼロ又は最小値になるようにZERO調整器を調整してください。  
 次に発振器の出力が入力定格周波数の時に出力が定格出力になるようにSPAN調整器を調整してください。  
 調整範囲は、標準仕様の場合ZEROが約5%、SPANが約10%となっています。  
 （注）カットオフ周波数：定格入力周波数の5%以下は、出力をゼロ又は最小値に保っています。  
 その周波数をカットオフ周波数としています。
- 校正は23 ±2、75%RH以下の周囲条件で行なってください。

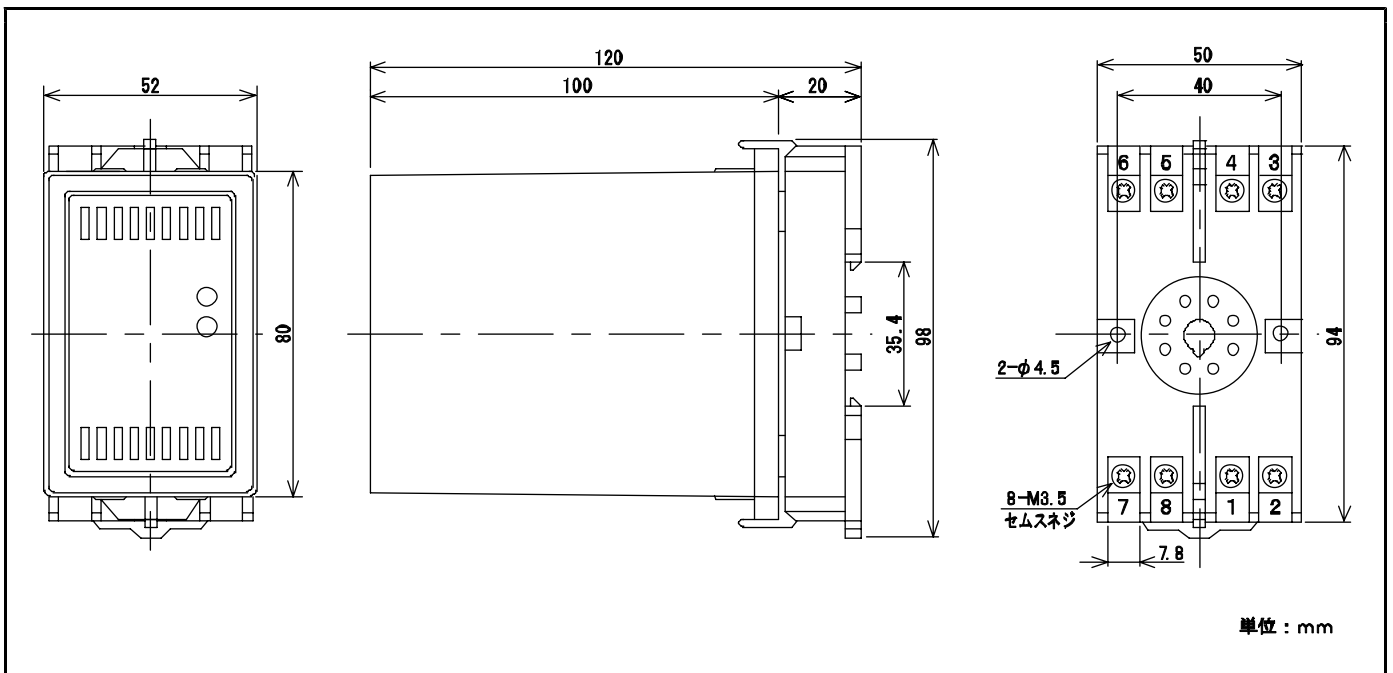


ブロック図



( ) は直流電流の場合

外形図



この取扱説明書の仕様は、2002年6月現在のものです。

**TSURUGA 鶴賀電機株式会社**

本社営業部 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉1丁目3番23号 TEL 06(6692)6700(代) FAX 06(6609)8115  
 横浜営業部 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1丁目29番15号 TEL 045(473)1561(代) FAX 045(473)1557  
 東京営業所 〒141-0022 東京都品川区東五反田5丁目10番18号TK五反田ビル7F TEL 03(5789)6910(代) FAX 03(5789)6920  
 名古屋営業所 〒460-0015 名古屋市中区大井町5番19号サンパーク東別院ビル2F TEL 052(332)5456(代) FAX 052(331)6477

当製品の技術的なご質問、ご相談は下記まで問い合わせください。

技術サポートセンター ☎ 0120-784646

受付時間：土日祝日除く 9:00~12:00/13:00~17:00

# 取扱説明書

## シグナルトランスデューサ

MODEL : 7672W

この取扱説明書は、本製品をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取り計らいください。  
本製品を安全にご使用いただくため次の事項をお守りください。  
また、ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

### ・ 注意

感電の恐れがありますので、次の事項をお守りください。  
 ・電源端子へ接続時は、活線状態で行わないでください。  
 ・端子への接続は緩みのないようにしっかりと締め付けてください。  
 ・通電中は電源端子に触れないでください。  
 次のような場所では使用しないでください。故障、誤動作等の原因となります。  
 ・雨、水滴、日光が直接当たる場所。  
 ・高温、多湿やほこり、腐食性ガスの多い場所。  
 ・外来ノイズ、電波、静電気の発生が多い場所。

### 点 検

・7672Wがお手元に届きましたら、仕様の違いがないか、また輸送上での破損がないか点検してください。本器は厳しい品質管理プログラムによるテストを行って出荷しています。品質や仕様面での不備な点がありましたら、形名・製品番号をお買い求め先又は当社営業所までご連絡ください。

### 使用上の注意

精密機器のため、運搬、取付け、その他取り扱いには十分ご注意ください。  
 本器には電源スイッチが付いていませんので、電源に接続すると直ちに動作状態になります。  
 電源回路にノイズ・サージ等が混入し誤動作、故障が発生する恐れのある場合には適当なノイズ対策が必要です。  
 本器の仕様・規格に適する範囲でご使用ください。

### 概 要

本器は各種のパルス列入力信号を、その周波数に比例し、2組の独立したご希望の直流電圧や直流電流に変換するコンパクトな絶縁信号変換器です。  
 取付は、DINレールにワンタッチで着脱できるプラグイン方式を採用していますので、取付工数が大幅に削減できます。

### 取扱方法

- 1) 取 付  
添付している端子台をDINレールに取付けるか又はM4ネジで固定してください。  
なお、2ヶ以上連続して取り付ける場合は、図1のような間隔をあけて取り付けてください。
- 2) 設置場所  
設置場所は周囲温度が -5 ~ 55 の範囲で、湿度90%RH以下の結露しない所をお選びください。

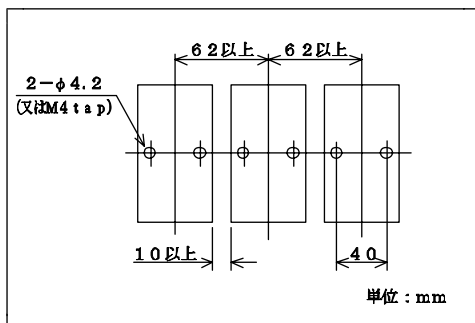


図 1

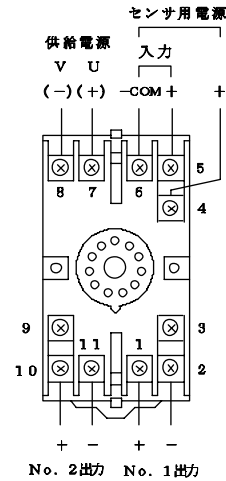


図 2

### 3) 配線

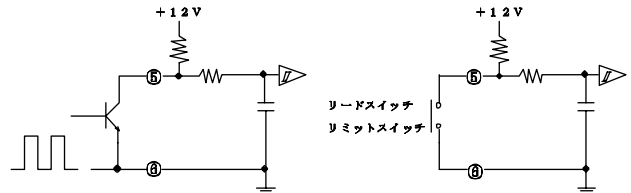
1. 本器の端子台の端子ネジはM3.5です。圧着端子等で正確、確実に配線してください。
2. 配線は図2の接続図により接続し、電線は回路の定格容量に適合するものを使用してください。
3. センサに電源が必要な場合は端子より供給してください。供給電源の定格はDC12V ± 10% 30mA MAXとなっています。

### 入力仕様

矩形波入力の場合DUTY比は20~80%の範囲内としてください。各種の入力信号波形に対応できるように3種の入力形式を準備しています。センサ等の種類により適切なタイプをご選定ください。

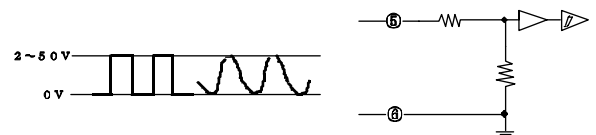
#### ON OFFパルス・・・形名：7672W 1

センサ側の出力が、無電圧接点、オープンコレクタ等のON OFFパルスに適した入力回路です。検出電圧はDC12VでON時の閉路電流は約3mAです。検出レベルは Hi : 5V以上、Lo : 1V以下となっています。



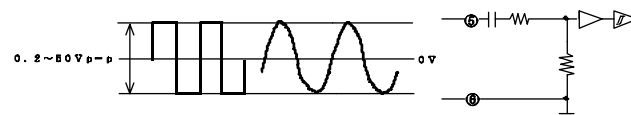
#### 電圧パルス1 (直流結合)・・・形名：7672W 2

センサ側の出力が、ロータリーエンコーダ、近接スイッチ、光電スイッチ等の直流の電圧パルス波形に適した入力回路です。入力信号電圧範囲は 2Vp ~ 50Vpです。検出レベルは、Hi : 1.5V以上、Lo : 0.5V以下となっています。入力インピーダンスは約200k です。



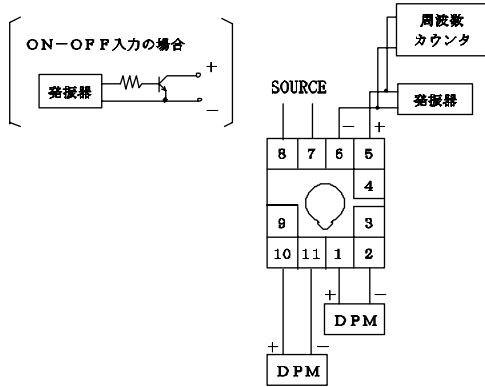
#### 電圧パルス2 (交流結合)・・・形名：7572W 3

センサ側の出力が、マグネチックセンサ、回転計用発電機等の交流の電圧パルス波形に適した入力回路です。入力信号電圧範囲は、0.2Vp p ~ 50Vp pです。検出レベルはHi : 0.1V以上となっています。

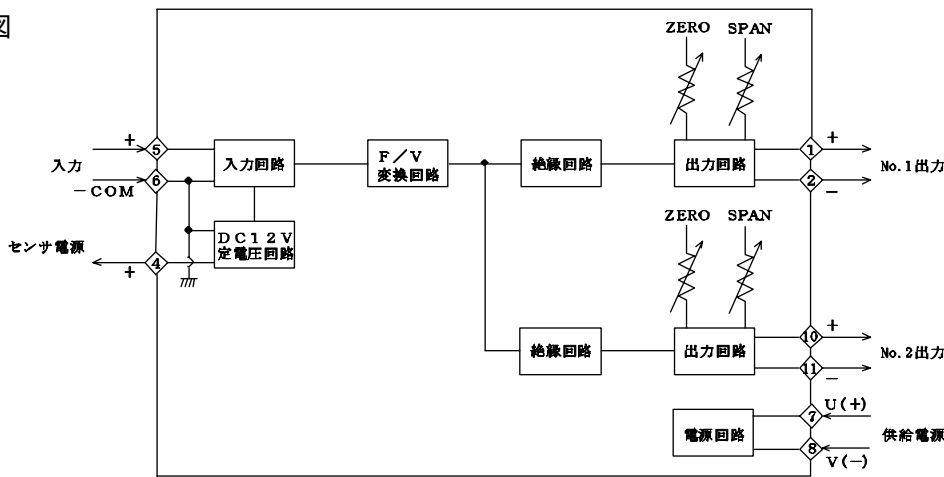


調整

- 出荷時は許容差内に調整してありますが、長期に精度を保持するため約1毎の校正をお勧めします。
- 校正する時は、発振器と周波数カウンタと電圧計（電圧出力の場合）、又は電流計（電流出力の場合）を図3のように接続してください。  
 発振器の出力がゼロ又はカットオフ周波数（注）以下の時に出力がゼロ又は最小値になるようにZERO調整器を調整してください。  
 次に発振器の出力が入力定格周波数の時に出力が定格出力になるようにSPAN調整器を調整してください。  
 調整範囲は、標準仕様の場合ZEROが約5%、SPANが約10%となっています。  
 （注）カットオフ周波数：定格入力周波数の5%以下は、出力をゼロ又は最小値に保っています。  
 その周波数をカットオフ周波数としています。
- 校正は23 ±2、75%RH以下の周囲条件で行なってください。

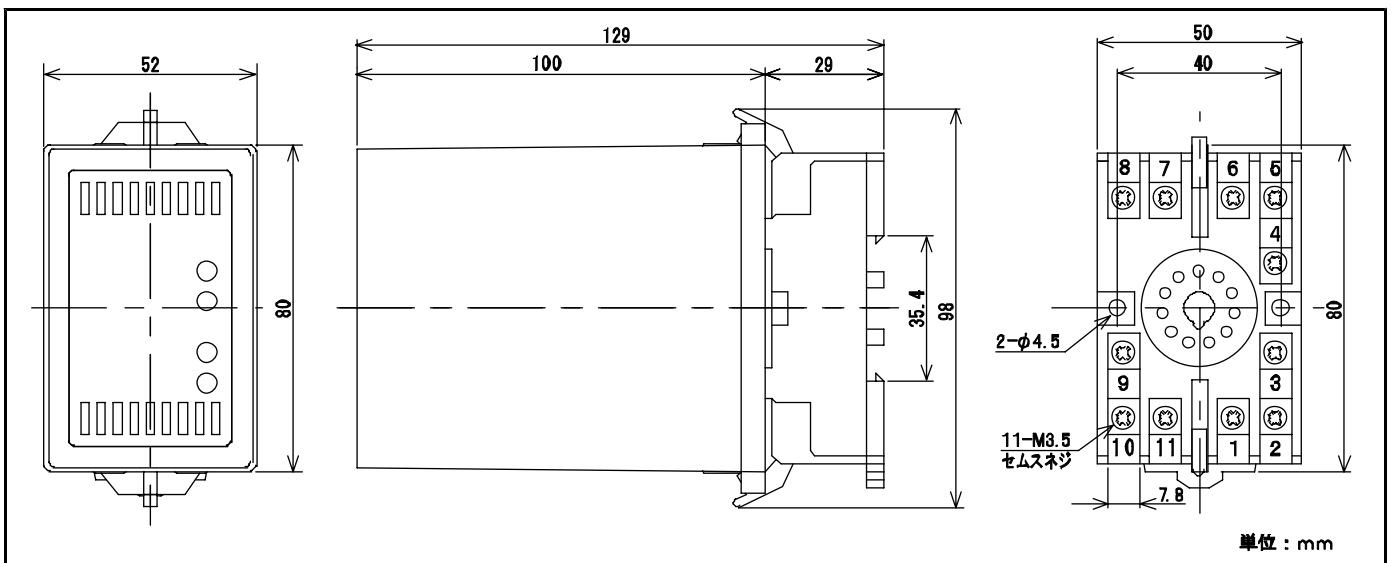


ブロック図



( )は直流電流の場合

外形図



単位：mm

この取扱説明書の仕様は、2002年6月現在のものです。

**TSURUGA 鶴賀電機株式会社**

本社営業部 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉1丁目3番23号 TEL 06(6692)6700(代) FAX 06(6609)8115  
 横浜営業部 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1丁目29番15号 TEL 045(473)1561(代) FAX 045(473)1557  
 東京営業部 〒141-0022 東京都品川区東五反田5丁目10番18号TK五反田ビル7F TEL 03(5789)6910(代) FAX 03(5789)6920  
 名古屋営業部 〒460-0015 名古屋市中区大井町5番19号サンパーク東別院ビル2F TEL 052(332)5456(代) FAX 052(331)6477

当製品の技術的なご質問、ご相談は下記まで問い合わせください。

技術サポートセンター ☎ 0120-784646

受付時間：土日祝日除く 9:00~12:00/13:00~17:00